

# 木のデザインを考える

## 木造耐火や都市建築のあり方など

### 下馬プロジェクト

イトーキは5月24日、イトーキ東京イノベーションセンター・シンカで「ティンバライズシンポジウム」新しい木のデザインとは」を開催し、ティンバライズの理事が設計した東京都内で建設中の木造5階建て（1階はRC造）の話題を中心に、新しい木のデザインについて討論した。このプロジェクトは「下馬プロジェクト」と呼ばれているもので、10年の歳月をかけてようやく実現するものだ。



木のデザインについて語り合うメンバー

下馬プロジェクトは2003年、ティンバライズの前身に当たる高層木造研究会の活動を知られた土地オーナーが自身の土地に木造集合住宅の建設を決め、メンバーに相談。当時は木造耐火構造の認定を受けたいものがなく、独自で1時間耐火構造の認定取得に動いた。当時は木造賃貸マンションに対する社会的な認知がなく、賃貸住宅ローンを組むために時間を要しているうちに、姉歯事件を契機とした構造偽装問題で建築基準法の厳格化が実施された。一度は確

認申請を取得したが、基準法の厳格化により適合性判定を取得することが必要になり、これに対応。木のまじ整備促進事業の補助を受け、昨年着工し、近く完成する。1時間耐火構造については、独自に石膏ボードと発泡黒鉛シートを用いた耐火被覆による認定を取得し、エレベーターシャフトまわりの耐力壁や外周部の斜材で水平力を負担。木造耐火構造でありながら、斜材で木材を現しにすることで木造としての意匠性を確保した。床は120mm厚の厚

板を2層直交させた木造スラブで構成。メンバーが木のデザインについて討論した際、「木造耐火で木が現しになっていることが重要と言われるが、最近の木造は、見えなくとも木造の良さが伝わるように感じる」と下馬プロジェクト設計者の小杉栄次郎氏が指摘した。

## 理事長に瀬戸亨一郎氏

### 日田木協総会

日田木材協同組合（大分県日田市、佐藤浩幸理事長、57組合員）は5月27日、第64回通常総会を開催し、19代目の新理事長に瀬戸亨一郎氏（瀬戸製材社長）を選任した。佐藤理事長は1期2年の在任期間だったが「世のながが変わり、

が感覚的に感じることもできる」（布施靖之氏）などティンバライズの他のプロジェクトも含めて、木を使ったデザインが鉄やコンクリートによるモダンデザインとどのように違うかについて、それぞれの意見を交換した。

瀬戸新理事長は「今は何から手をつけたいのかと考えている状況で、日田木協の歴史を改めて勉強している。ともかく組合員の協力がなければ何一つできることはない。関係各位のご協力、ご支援をお願いしたい」とあいさつした。



同協会の主な事業の前年度実績は、取扱量で原木市場事業1万7389立方尺（前年度比26%減）、製品共販事業1万4029立方